

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2024年度 助成者)

作成日 2024年 8月 26日

氏名 (フリガナ)	水野 隼 (ミズノ ハヤト)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	筑波大学
学年	5年

初めに、英語でのケースプレゼンテーションを学ぶ大変貴重な経験をさせていただいた日米医学医療交流財団の皆様とプログラムに関わってくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

1週間という短い期間で、本当にケースプレゼンテーションのスキルが身につくのか少し不安がありました。しかし、実際に参加してみると、朝から晩までの非常に密度の高いプログラムで、どの先生方も熱心にご指導いただき、非常に満足のいく内容でした。日常会話レベルの英語は日本で身につけていましたが、患者さんのケースプレゼンテーションを英語で行う練習は、日本ではほとんど経験したことがありませんでした。このプログラムを通じて、ケースプレゼンテーションの型を学び、JABSOMの学生たちから問診を行い、問診で得た内容を先生方に実際にプレゼンテーションをしてフィードバックをいただくことができました。1週間である程度自信を持ってケースプレゼンテーションを行えるようになり、来年のアメリカでの臨床実習に向けて知識と自信をつけることができました。

さらに、プログラム中には小林先生のクリニックを訪問させていただいたり、ハワイでレジデントとして働かれている先生方のお話を伺うことができました。将来アメリカでレジデントとして働くためにはどのような準備が必要か、どのような方々に相談すればよいかなど、非常に貴重な知見を得ることができました。

また、JABSOMの生徒たちとの交流も大きな刺激となりました。問診が終わった後やプログラムの最後のパーティで彼らと親交を深め、米国の医学生も同じように大学生活を送り、必死に勉強していることを知ることができました。日本の医学教育とは異なる側面を持つ彼らとの交流を通じて、ハワイ独特の慰霊式について話を聞いたことが強く印象に残っています。

プログラムには大分大学や新潟大学、東海大学など日本各地の様々な大学から医学生が集まっていました。彼ら彼女らと同じ授業を受け、寮で生活し、プログラムの空き時間にはショッピングや海に遊びに行くことで、他の医学生も同じように努力していることも知ることができました。それぞれが色々なバックグラウンドを持っていて、夢や今後の目標を聞くことで自分自身も頑張っていこうと意欲がわき、今後も相談のできる友人を作ることができました。

最後に、このような貴重な学びの機会を与えてくださった日米医学医療交流財団の皆様、ハワイ東海大学の皆様、そしてプログラムに関わったすべての方々に、改めて心から感謝申し上げます。今回のプログラムで得た知識を今後の研鑽に活かし、さらなる成長を遂げてまいりたいと思います。